

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2009.11.25 No. 60 連絡先 042-555-1911



11月の“横田基地の撤去を求める座り込み”に青年が参加！

【横田基地フィールドワークに参加した日本平和委員会の西村美幸さんに原稿を寄せて頂きました。】

東京平和委員会青年協議会は11月15日、日本平和大会（12月10～13日、神奈川県）のプレ企画として横田基地フィールドワークを開催、約10人が参加しました。

午前中は、立川市在住で青年協事務局長の近森拡充さんのガイドにより、基地の周りを歩いて回りました。米軍の規制によって周辺地域では建築物の高さに制限があること、高架橋を作れないため道路が線路の下を通り、大雨のときは冠水するので通行止めになること、滑走路拡張のために線路が曲げられたことなど、米軍中心の無計画な街づくり



フィールドワークなどの感想を発言

に驚きと怒りの声が上がりました。また、次々と新築される基地外の米兵向け住宅の大きさにも驚きの声。基地内の住宅も、フェンスを隔てて隣り合う民家が見劣りするほど立派なもので、参加者からは、思わず「私もこんな家に住みたい」の声や、「誰の土地だ」とため息も。

午後はフレンドシップパークでの座り込みに参加。隣り合った地元の方々から、活動の様子を聞くなどしました。また、青年協の活動紹介やフィールドワークの感想などを発言しました。

参加者の一人は「横田基地をじっくり回ったのは初めてでした。お隣りさんが米兵家族ってどんな感じなのだろう...」と思いながら。私は、こわいと思ってしまいます。こわいと思わないですむように、軍隊はなくしていきたいなあと思う。ゆるゆると楽しく、でもしっかりと基地NOをアピールできる座り込み、ステキです。横田基地でも月1回座り込みをしていること、本当に素敵だなあと思いながら参加しました。継続してることも。基地のある場所で広がったら、すごいなあと思いました」と感想を寄せてくれました。

「米軍機来るな茨城実行委員会」が、米軍横田基地視察ツアー

11月19日、「米軍機来るな茨城実行委員会」主催のツアーで、茨労連、新婦人、県平和委員会・地域組織など7団体、48人がマイクロバス2台で、米軍横田基地の視察に見えました。

羽村産業福祉センターに11時前後に到着。横田基地の概要や座り込み行動のことなどプロジェクターで説明。その後、バスに東京平和委員会の平田代表理事と岸本事務局長が分乗し移動。みずほスカイホール屋上から基地を眺めながら広さを実感。基地の北側でも下車の予定でしたが雨のため車中からガイド。16号を南下しながら、基地内の高層住宅、ショッピングセンターやレジャー施設、小中学校が少人数学級であること、これらの施設が私たちの税金「思いやり予算」でつくられていることなどガイドしました。「東京都にあれ程の広大な基地があったとは考えられなかった」「爆音とともに黒く異様な飛行機が着陸する場面に遭遇し、危険を感じた」との感想が「平和かわら版」（茨城平和委）に寄せられていました。



新政権、航空総隊司令部の墨塗り図面は「妥当」と回答！ (No. 60 裏面)

「横田基地の撤去を求める西多摩の会」では、地上3階、地下2階、延べ面積27,000㎡という航空自衛隊航空総隊司令部棟の建築図面の情報開示を求めてきました。防衛省は不開示だったので、新政権の内閣府に意見書を出しました。この度、内閣府の審査会から、略称「てっきよの会」に「一部不開示とした決定は、妥当」との回答が届きました。(一部開示されたものとは建築計画概要書で、図面は2000分の1というもの。平面図等20の図面は不開示)

審査会の判断理由を一部抜粋すると、全体配置計画図を「部分的にせよ公にすると、米軍横田基地内における自衛隊の施設に対する個別具体的な情報が明らかとなり、当該施設に対する攻撃又は侵入を企図する相手方をして、破壊活動等を容易ならしめるおそれがあると認められる。」「防衛省・自衛隊の任務の効果的な遂行に支障を生じさせ、ひいては国の安全を害するおそれがあると行政機関の長が認めることにつき相当の理由がある」としています。

武蔵村山市でバイクに乗った女性(23)がロープに引っかかって重傷

11月21日の報道によると、8月13日の深夜、武蔵村山市伊奈平の道路で、バイクで帰宅途中だった女性が道路に張られたロープに引っかかって転倒し、頭の骨を折る重傷を負いました。ロープは普段、倉庫の入り口に張られていましたが、事件当時は何者かによって道路を横断する形で張られていました。

その後の捜査で、事件直前、横田基地に所属する米兵の子供で15歳から18歳の少年少女4人が周辺の防犯カメラに映っていたことなどから、警視庁は、事件に関わった疑いがあるとしてこの4人を、早ければ来週中にも殺人未遂の疑いで立件する方針です。



横田基地所属の米兵の子4名によるバイク転倒事件 東京平和委員会が抗議声明

東京平和委員会は2009年11月21日、下記の内容を在日米軍横田基地第374空輸航空団司令官 J. マーカス・ヒックス大佐と岡田克也外務大臣宛に、FAXにて送付しました。

横田基地所属・米兵の子の少年少女4名によるバイク転倒事件への抗議声明

朝日新聞の報道によると、東京都武蔵村山市で8月、故意に道路に張られたロープにバイクの女性(23)が引っかかって転倒し、頭蓋骨(ずがいこつ)が折れる重傷を負った事件があり、在日米軍横田基地所属の米兵の子の少年少女4人が当時現場にいたことが、捜査関係者への取材で判明。警視庁は少年らに関与した疑いがあるとして近く殺人未遂容疑で立件する方針を固めた。

現場に駆けつけた警察官が4人から事情を聴いたが、偽名を名乗るなど不審な点があった。さらに近くの防犯カメラに、事件直前に4人が映っていたという。と報じている。

現場付近は倉庫が立ち並び、街路灯は道路の片側にしかなく、夜間は見通しが悪く、片側一車線で車の往来もあり、一歩間違えればさらに大きな事故に発展しかねない状況にありかなり悪質である。

また、日本の警察が捜査できないよう、基地内に逃げ込み「治外法権」を悪用している。根本には「日米地位協定」があり、犯罪者をも守る仕組みが問題で見直す必要がある。

沖縄では、先日11月7日に米兵による「ひき逃げ死亡事件」が発生しており、再三にわたる米兵や関係者の犯罪に怒りをこめ抗議する。

現在、警視庁は殺人未遂容疑での立件を目指し捜査を行っている。「日米地位協定」では、軍人の家族を対象外としており、一般的に刑事手続きに支障はないものとなっており、捜査段階からの身柄の引き渡し、警察による取り調べに、横田基地司令官の全面協力を求めるものである。また、被害女性は米軍基地を容認し続けている政府の犠牲ともいえる。政府としての謝罪、全治までの保障と慰謝料を求めるとともに、「日米地位協定」抜本的改訂、米軍基地の整理、縮小、撤去を強く求めるものである。